

北長瀬 コミュニティフリッジ

話し手：一般社団法人
北長瀬エリアマネジメント(運営団体)
専務理事 新宅 宝さん

コミュニティフリッジは どのように出来たのか

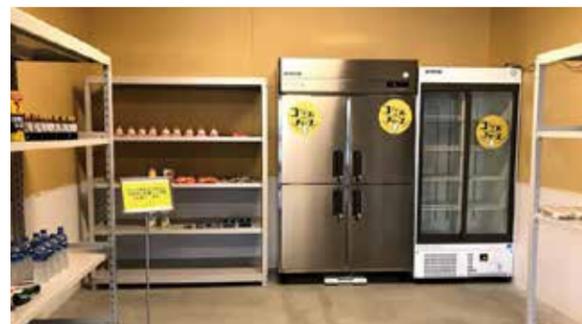
2020年の初め、新型コロナウイルスが日本でも蔓延するようになり、経済活動や社会活動が停滞していきましました。環境が目まぐるしく変化する中「生活が苦しい」という声を岡山県内からも多数聞くようになり、岡山県のNPOの人たちで支援しようと“岡山親子応援プロジェクト”を立ち上げました。

岡山親子応援プロジェクトに取り組む中で、ひとり親世帯を対象にアンケートを実施した結果、食料や生活用品を必要としている人が多くいました。さらに私の活動する北長瀬という地域でも同様に食料支援を求めている方が多くいるということを知り、食料支援の仕組み作りを決めました。

「継続できる仕組みで食糧支援をしよう」ということで元々ドイツにあったコミュニティフリッジに着目します。日本人が利用しやすいよう安全・安心を土台に、岡山市北長瀬に日本で初めて今のコミュニティフリッジの仕組みを設立しました。

コミュニティフリッジの仕組み

北長瀬コミュニティフリッジは、生活に困難を抱えている人たちが食料品や日用品を24時間いつでも無料で受け取ることができます。受け取り場所は商



業施設の立体駐車場の隣にあり、32㎡の倉庫の中にある食料や日用品を持ち帰ることができます。利用する方は事前登録が必要になり、登録している方しか倉庫内に入れられないような仕組みになっています。

利用者について

北長瀬コミュニティフリッジを利用するにはインターネットからの登録が必要です。児童扶養手当、就学援助を持っている人が対象です。申込内容を事務局が確認し、内容に間違いが無ければ利用できるようになります。登録が完了した人にはスマートフォンのアプリでコミュニティフリッジの倉庫のドアの鍵を開け閉めができる権限を付与します。その後24時間いつでも自分の都合の良いタイミングで倉庫の利用ができるようになります。

利用者は仕事の後など深夜にしか時間を作れない人も多いです。時間を選ばずに支援を届けたいという想いから24時間倉庫を稼働しています。倉庫は駐車場と直結している上に無人なので、人目に付きづらい構造になっています。出入りするところを見られたくないという利用者も多かったので、倉庫も分かりづらい場所にあります。

【実際の利用の流れ】

コミュニティフリッジのドアの鍵をスマートフォンのアプリを利用し開けて中に入り、必要なものを持ち帰ります。従来、フードパントリーなどでは食品をあらかじめ袋に入れ、既にパッケージになったものを渡すスタイルが多かったのですが、家庭に必要な食品が含まれている場合、家で食品ロスが発生してしまいます。そうしたことを避けるためにも、コミュニティフリッジでは利用者にはスーパーのように必要なものを選んで受け取ってもらう仕組みになっています。倉庫から出る前に、持ち帰る食料や日用品をスキャナーで読み取ります。スーパーやコンビニにあるセルフレジのようなイメージです。

寄付者について

寄付者も利用者同様登録制となっていて、私たちは寄付者のことを“フードプレゼンター”と呼んでいます。フードプレゼンターはコミュニティスペース“ハッシュタグ岡山”に寄付品を持ち込みます。持ち込みが難しい場合は郵送も受け付けています。北長瀬コミュニティフリッジには冷蔵庫、冷凍庫を設置しているので、幅広い食料に対応しています。卵や乳製品、冷凍食品など、消費期限が過ぎておらず未開封、また消費期限が1日でも残っていれば受け取りの対象となります。

現在の利用者と寄付者

約1043名の個人寄付者（全体の6割）、117の企業と団体（全体の4割）から年間20万点ほどの寄付があります。平日は毎日誰かが寄付してくれていて、趣味で農家をしている方も寄付してくれるので野菜などの生鮮食品も多数あります。個人の寄付が多いのは地域での支え合いにもつながり、まちづくりの観点から見てもメリットになっています。

利用者については、毎日約70~90世帯の利用があります。電話相談も日に日に増えてきていて、ここ最近の物価上昇を受けて生活が困難な方が増えていることを感じます。※数字は2022年11月24日時点

運営側について

既存のシステムを組み合わせる利用者、寄付者、食品の管理をしています。

Qrio：倉庫の電子ロック、入館履歴の確認を行うシ



▲コミュニティフリッジ内のメッセージボードに寄せられた利用者の声

ステムです。利用者の多い時間帯を把握できたり、履歴が確認できるので防犯にも有効です。

Kintone：利用者・寄付者リスト、在庫管理を行います。また寄付の種類や寄付者がどれくらいの頻度で寄付をしているかが確認できます。年度末に寄付の総額を算出することも可能です。

SendGrid：メール送信システム。寄付者にはメールで食料を募集したり、利用者には期限が近い食料が大量にある際にメールで案内したりなど、ロスを減らすこともできます。寄付者が寄付したものが倉庫でロスになっているのではないかと心配がありましたが、メールシステムを利用することでロスなく運用できています。

ハンディスキャナー：食料の在庫管理の際に利用します。バーコードを読み取り情報をデータベースに取り込みます。寄付者が持ってきた食品を検品後、倉庫へ持っていき品出しを行います。常温の棚には段ボール約20箱、200~300食の収容が可能です。冷蔵庫は577L、冷凍庫は839L。

コミュニティフリッジの 広がり今後について

2023年現在、全国7拠点に広がっています。北長瀬コミュニティフリッジの仕組みやシステムを使って拠点を増やす場合、最低限かかるシステムの利用料をお支払いしてもらい、開設から運営までのお手伝いを北長瀬コミュニティフリッジが行っています。

現在個人のフードプレゼンターが1,000名以上、企業・団体は117組織と、多くの人に支えられてこの活動が継続できています。支援いただいた食料を必要な人にきちんと届け、利用する方には安心して安全なものを自分の好きな時間で受け取れる仕組みを継続して取り組んでいきたいと思っています。

毎日のコツコツとした支え合いを少しずつ重ねていくことで、北長瀬というまちが多くの人にとって住みやすい場所になることを願い、これからも活動を継続していきます。